



2018年4月16日  
三重県  
松阪市  
公益財団法人イオン環境財団

## 「松阪市植樹」に向けて森林保全協定を締結

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）と、三重県（知事 鈴木英敬）、ならびに松阪市（市長 竹上真人）は、4月6日（金）、「松阪市植樹」に関する森林保全協定を締結しました。

本協定は、三重県が推進する地域と地域の連携を深めた森林づくりを行う「企業の森」の趣旨と、イオン環境財団の実施する植樹活動の趣旨が合致することから締結に至ったものです。

調印式では、鈴木三重県知事、竹上松阪市長より植樹に対する期待が語られるとともに、岡田イオン環境財団理事長が「この植樹の特徴は、地域の方が参加することで環境に関心を持ってもらうことです。多くの地域のボランティアの方に参加をお願いしたいと思います」と呼び掛けました。



### 【第1回 「松阪市植樹」（「イオンの森」森づくり）の植樹概要】

日 時： 6月16日（土）10：00～12：00  
場 所： 三重県松阪市飯南町向粥見3738-9  
植樹本数： 5,000本  
樹 種： ヤマツツジ、クヌギ、コナラ、ヤマザクラなど地域に自生する樹種12種  
参加人数： 500名  
植樹出席者： 三重県 知事 鈴木 英敬  
（予定） 松阪市 市長 竹上 真人  
イオン環境財団 理事長 岡田 卓也

## ご参考

### ■植樹活動

各国政府や地方自治体と協力し、自然災害などで荒廃した森の再生を目的として、アジアを中心とした世界各地で植樹を行っています。2018年度は、国内では福島県南相馬市、宮城県亘理町、宮崎県綾町、大分県竹田市、沖縄県糸満市、千葉県千葉市にて、海外では中国北京市密雲区、ミャンマー・ヤンゴン、インドネシア・ジャカルタにおいて植樹活動を実施します。



2017年カンボジア植樹



2017年大分県竹田市植樹

### <三重県における当財団の植樹活動について>

#### 2005年～2009年 「大台町（旧宮川村）植樹」

三重県 宮川村（現大台町）では、林業の担い手不足のため、手入れが行き届かなくなった放置森林に、広葉樹との混交林づくりを行っていましたが、2004年9月の台風21号で土石流が相次ぎ大きな被害を受けました。荒れた林を、土砂崩れ防止、水源涵養、二酸化炭素吸収という森林本来の役割を蘇らせるという取組に賛同し、2005年から5年計画で大台町、みやがわ森選組とともにヤマモモ、クヌギ、アキグミ、ウバメガシ等を植樹しました。



2008年宮川村植樹

#### 2006年～2008年 「四日市水沢・桜地区植樹」

「四日市市から要請があり、「四日市サイクル・スポーツフェスティバル」のレースコース沿いに桜やもみじを3年計画で植樹しました。このレースコースは、のどかなお茶畑を走るとともに、住宅街を走るめずらしい設定となっています。

#### 2012年～2014年 「紀北町植樹」

三重県紀北町海山区は、世界遺産である熊野古道が通る山、川、海と豊かな自然を有する地域です。しかしながら、近年高速道路の建設に伴い、町有林等が伐採されたままの状態です。また、住宅地の裏山の松林が枯れて、整備が急がれる場所でもあります。これらの場所に土地本来の樹種を植樹することで土砂崩れなどの災害から守り、住民の皆さまが安全に暮らすことができ、安心して観光ができる街づくりを目指し、2012年から3カ年植樹を実施しました。



紀北町植樹石碑

これまでの（公財）イオン環境財団による三重県での植樹活動

植樹エリア	実施年度	植樹本数	ボランティア数
大台町（旧宮川村）	2005年～2009年/5年間	8,100本	2,270名
四日市市水沢町	2006年～2008年/3年間	470本	570名
紀北町海山区	2012年～2014年/3年間	15,000本	1,540名
累計	植樹回数11回	23,570本	4,380名

## ■環境活動助成

1991年より27年間「生物多様性の保全と持続可能な利用」のため、国内外の地域において、積極的に環境保全活動を継続している団体への助成支援を行っています。2017年度は、植樹、森林整備、砂漠化防止、里地・里山・里海の保全、湖沼・河川の浄化、野生生物の保護絶滅危惧生物の保護などを行う団体102件に、9,500万円の助成を行いました。累計では2,846件、総額25億9,200万円となりました。2018年も継続して環境活動への助成を実施します。



NPO法人しろい環境塾ドングリ工作（千葉）

## ■顕彰 生物多様性アワード

生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的として、「生物多様性みどり賞（国際賞）」と「生物多様性日本アワード（国内賞）」の2つのアワードを創設し、隔年で顕著な環境保全活動が認められる個人・団体を顕彰しています。2017年度は第5回「生物多様性日本アワード（国内賞）」を実施しました。2018年度は、第5回「生物多様性みどり賞（国際賞）」を実施いたします。



第5回「生物多様性日本アワード」  
受賞式（国連大学）

## ■環境教育

### アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的として、アジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について国境を越えて討議をする、「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」を実施しています。2017年度は、「生物多様性と再生」をテーマに、王立プノンペン大学（カンボジア）、清華大学（中国）、インドネシア大学（インドネシア）、早稲田大学（日本）、高麗大学校（韓国）、マラヤ大学（マレーシア）、ベトナム国家大学ハノイ校（ベトナム）、チェラロンコン大学（タイ）の8ヶ国合計64名の学生が参加し、8月1日～6日の期間、日本で開催しました。



第5回「生物多様性日本アワード」  
受賞式（国連大学）

### 早稲田大学との連携事業——生物多様性を越えて（Beyond Biodiversity）

国際的な視野で生物多様性の価値を問い直し、新たな価値共有ができる教育を行うことを目的とするプログラムです。2016年10月6日～10月7日ベトナム国家大学ハノイ校で初めて開催しました。昨年10月13日（金）に、王立プノンペン大学（カンボジア）にて開催しました。



第2回生物多様性を越えて  
（カンボジア王立プノンペン大学）

### 東京大学IR3S —— イオン未来の地球フォーラム

地球の環境変化や環境問題について、参加者とともに解決方法を考え、実行案を議論し、講演と対話型パネルディスカッションにおいて理解を深め、成果をまとめる「イオン未来の地球フォーラム」を本年から開催しています。2018年1月20日（土）には、東京大学安田講堂にて、「第2回イオン未来の地球フォーラム」を実施しました。



第2回イオン未来の地球フォーラム  
（東京大学安田講堂）

## **太陽光発電システムの寄贈**

再生可能エネルギー活用の啓発・普及および環境教育を目的に、国内外の小中学校へ「太陽光発電システムの寄贈」を2009年から行っています。2016年度までに、日本、マレーシア、ベトナム、中国の合計40校に寄贈しました。2017年度は昨年に引続き、中国武漢市の小中学校5校を対象に寄贈しました。



2017年太陽光発電システムの寄贈(中国・武漢)



2010年太陽光発電システムの寄贈  
(千葉県鴨川市立鴨川中学校)

## **【その他】**

### **■イオン1%クラブ ティーンエイジアンバサダー**

公益財団法人イオンワンパーセントクラブは、2017年に「日本 ベトナム ティーンエイジアンバサダー」を実施しました。1月には三重県の高校生計16名がベトナムを訪問、また3月にはベトナムの高校生16名が日本を訪問しお互いの親交を深めました。両国の生徒がお互いペアとなって交流し、政府への表敬訪問や現地の暮らしを体感するホームステイ、伝統工芸体験など、国の文化や価値観に触れる活動を行い深耕を図りました。また2017年3月18日(土)には、「ハノイ市100万本植樹計画」に賛同してハノイ市内のホアビン平和公園で開催された公益財団法人イオン環境財団主催の桜植樹に、両国の生徒が参加しました。また、2015年にも三重県の高校生とインドネシアの高校生の交流プログラム「日本 インドネシア ティーンエイジアンバサダー」を実施しています。